



獄友たちに寄り添い続ける金監督。次回作は？

不運だったけど、不幸じゃない… 「冤罪仲間」5人の青春物語

「とんでもない冤罪で刑務所に入っているながら、それでも、そこで何かを見つけて、そこで生き続けている。どんな苦しいことも、それを含めて生きることであり、彼らの青春なのではないか。だとしたら、冤罪だってひとつの生き方として、語弊を恐れず言えば、すごくPOPに描けるかもしれない」

衝撃だった袴田さんの出獄
そう考えるようになって、石川さん、布川事件の桜井さん、杉山さん、足利事件の菅家さんたち4人を撮り始めていた。そのとき、袴田さんが再審開始決定を受け、私たちがの前に半世紀ぶりに姿を見せた。この時のインパクトは、余りに強烈だった。
「メディアは、彼の口から出る言葉を、意味不明なものとか伝えない。たしかに額面通りには意味が成り立たない。しかし、そんな単純なものではない、と感じたのです」
「彼は、来る日も来る日も死を見てきて、何とかそれをシャットアウトして自分の世界を作りあげ、そこで絶対権力者となって、死刑を廃止し、袴田事件はなかったと宣告して生き延びてきたのです」
はじめは表情が乏しく、ひ

たすら歩くだけだったり、ただ食べるだけだったりした。だが撮影を続けるうちに、確かに転機や変化があることに気づいた。表情は確実に豊かになっていった。
同時代を生きているから、つくれた作品
「彼らはいわば冤罪アベンジャーズだと思うんですよ。あの意味で、冤罪のエリートともいえる象徴的な存在になってもらって、彼らのキャラクターを世に出すことで、冤罪（のなんたるか）を示すことができるのではないかと考えたのです」金監督はそう語る。
彼らがいる同時代を生きている今しか、この映画は撮れない。この映画だけが伝えられる何か、冤罪という、きわめて特殊な体験かもしれないが、それが教えてくれるもつと

千葉刑の将棋大会で準優勝した経験をもつ桜井さんも、袴田さんにはたじたじ。



「獄友」上映予定と、自主上映の相談は、以下のウェブサイトに。(「獄友」で検索)
<http://www.gokutomo-movie.com/>

獄友

長編ドキュメンタリー映画
上映時間：115分

監督：金 聖雄
撮影：池田俊巳 渡辺勝重
音楽：谷川賢作
プロデューサー：陣内直行
製作・配給：Kimoon Film
出演：石川一雄(狭山事件)獄中31年
桜井昌司(布川事件)獄中29年
杉山卓男(布川事件)獄中29年
菅家利和(足利事件)獄中17年半
袴田 巖(袴田事件)獄中48年



「互いに何もいわなくてもわかりあえる、そんな関係ってほかにない」桜井さんは、獄友のことをよくこういう。

冤罪という、想像を絶する重みをそれぞれにかかえた人生と、その彼らの交流を追った長編ドキュメンタリー映画「獄友」が、いま全国各地で自主上映を続け、共感と感銘を広げながら行脚している。
text: 今井恭平

「SAYAMA」夢の間の世の中」の金監督、シリーズ第3作が全国行脚中

「獄友」(こくとも)と読む。読んで字のごとく、監獄で知り合い、きずなを結んだ友人である。
石川一雄さん(71歳)、菅家利和さん(72歳)、袴田巖さん(82歳)そして杉山卓男さんは、享年69と書かなければならない。2015年10月に故人となったからだ。
本誌読者でなくとも、これらの方たちの名前は聞いたことがある筈だ。いずれも身に覚えのない「殺人犯」の濡れ衣を着せられ、その汚名を雪ぐために、人生のほとんどをたたかい抜いてきた人たちだ。
彼ら5人には、冤罪仲間というだけでなく、ひとつの共通点がある。死刑囚として東京

拘置所に入れられていた袴田さんをのぞく4人は、いずれも無期囚として千葉刑務所で長い年月を過ごした。また、全員が東京拘置所での未決生活も経験している。石川さんは、袴田さんと同じく死刑囚としてそこにいたことさえある。

なつかしの千葉刑務所

獄友たちは、今でも時々互いの無事を確かめ合うかのようになり、顔を揃える。そんなとき、必ず話題になるのが「なつかしい」千葉刑務所での春秋のあれこれだという。
「どんな話をするのか、きつとしんどい話、聞いて辛い話だろうと思っていた。そうしたら、楽しそうに千葉刑務所を懐かしむ話になっていく。『菅家さんは、17年半だから、短いよね』なんて桜井さんがふると、菅家さん本人も『そ

うなんですよね。私は短いから』なんて照れたように笑顔で返したりしている。予想外の展開に、ついつい引きこまれてしまったのです」

獄友たちとの最初の出会いを思い出してこう語るのには、金聖雄監督。狭山事件の石川一雄さんと妻の早智子さんを描いた「SAYAMA」みえない手錠をはずすまで」や2014年3月、再審開始決定とともに半世紀ぶりに「娑婆」に姿を見せた袴田巖さん、それからの日々カメラで寄り添い続けた「袴田巖夢の間の世の中」の監督である。
金監督にとって、「獄友」は、冤罪をテーマにした第3作となる。

「2010年に、石川さんを撮り始めた時は、何をどう撮れるか雲を掴むようでした」こう語る監督は、さらに続ける。